

地域バイオマス利活用交付金(ソフト事業)

東北農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	市町村	農政局等	
【バイオマスタウン構想を策定するために必要な事業への支援】													
岩手県	奥州市	奥州市	奥州市	1. バイオマスの利活用の推進 (1)バイオマスタウン構想の策定支援 ・検討委員会の開催 4回開催 ・先例地研修の実施 BDF・木質ガス・米エタノール等研修 ・市民普及啓発シンポジウム 1回開催 ・タウン構想概要版の作成・配布 43,000枚(世帯)	H22	バイオマスタウン構想へのステップアップ 年度:平成21年度	○	・タウン構想策定後に実施するアンケート調査において、市民意識高揚率50%以上	○	21年度事業内容の、検討委員会、先例地研修、市民普及啓発シンポジウム、タウン構想概要版の作成・配布を全て実施し、個別成果指標を達成すること等により、市民のバイオマスタウンへの理解を深め、平成22年3月バイオマスタウン構想を公表し、目標は達成された。 今後は、タウン構想に示す方向性に基づき、既に取り組んでいる木質バイオマスの利活用の方策の推進、米エタノールの実証検討、BDFの利活用システムの推進などを着実に実施しつつ、行政・市民・市民団体・事業者が協働してバイオマス利活用の取組を強化していく。	奥州市が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	事業内容すべてを実施し、個別成果指標を達成すること等により、市民のバイオマスタウン構想への理解を深め、22年3月に奥州市バイオマスタウン構想を公表し、目標は達成されたと認められる。	
岩手県	一戸町	一戸町	一戸町	1. バイオマスの利活用の推進 (1)バイオマスタウン構想の策定支援 ・策定委員会の設置・開催 ・バイオマス事業の要望や展望の整理 ・バイオマス賦存量の調査・整理 ・コア事業の基本検討・関連事業の可能性	H22	バイオマスタウン構想へのステップアップ 年度:平成21年度	○	・構想(案)を町民へ説明(説明会の開催1回)し、理解を深める。	○	平成21年度事業内容の策定委員会、バイオマス事業の要望や展望の整理、先進地視察及び個別成果指標などを全て達成し、バイオマスタウン構想を策定し目標は達成された。 今後はタウン構想の実現に向け一戸町バイオマス利活用推進協議会や各部会を組織し、バイオマスタウン構想の実現に向けた取組を推進していく。	一戸町が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	事業内容すべてを実施し、個別成果指標を達成すること等により、町民のバイオマスタウン構想への理解を深め、22年3月に一戸町バイオマスタウン構想(案)を農政局に提出したことから、目標は達成されたと認められる。 なお、一戸町バイオマスタウン構想は22年4月に公表されている。	
秋田県	大仙市	大仙市	大仙市	1. バイオマスの利活用の推進 (1)バイオマスタウン構想の策定支援 ・協議会の開催 ・先進地視察 ・バイオマスタウン構想研修 ・小中学生用啓発パンフレットの作成 ・構想策定	H22	バイオマスタウン構想へのステップアップ 年度:平成21年度	○	小・中学生を対象としたバイオマスタウンの啓発・PRをする事により、未来を担う世代に大仙市将来像への創造力と、郷土への愛着を育む。また、子供達への啓発・PRにより家庭でのバイオマスタウンの話題を提供する。 子供達を媒体に、多くの市民のバイオマスタウンへの関心を向上させる。 5、6年生 1,600人 中学生 2,600人 教員等 800人 計 5,000人	○	平成21年度事業内容の協議会の開催、先進地視察、及び中学生用啓発パンフレットの作成を実施し、個別成果指標を達成すること等により、市民へのバイオマスタウンへの理解を深め、平成22年3月31日大仙市バイオマスタウン構想を公表し、目標は達成された。 今後はバイオマスタウン構想の実現に向け、民間事業者への補助事業の周知等、引き続き啓発活動を推進していく。	大仙市が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	事業内容すべてを実施し、個別成果指標を達成すること等により、市民のバイオマスタウン構想への理解を深め、22年3月に大仙市バイオマスタウン構想を公表し、目標は達成されたと認められる。	
福島県	西郷村	西郷村	西郷村	1. バイオマスの利活用の推進 (1)バイオマスタウン構想の策定支援 ・バイオマスタウン構想策定に関する基本的事項及び賦存量の調査・検討 ・西郷村バイオマスタウン推進協議会の開催等 ・住民への啓発、循環型社会への意識改革の実施	H22	バイオマスタウン構想へのステップアップ 年度:平成21年度	○	・推進協議会を3回開催し、意見の集約を行い、構想に反映させる。 ・バイオマスタウン構想を普及させるため、広報チラシの配布や、地区住民への説明会等を開催し、理解を深める。	○	事業内容として定めた、賦存量の調査検討、推進協議会の開催、住民への啓発等、個別成果指標に掲げた目標を全て達成し、また、「西郷村バイオマスタウン構想」を策定し、目標は達成された。 今後は、バイオマスタウン構想の実現に向け、村民、事業者、行政等がそれぞれの立場に立って、実現可能な事業の取組を推進していくものである。	西郷村が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	事業内容すべてを実施し、個別成果指標を達成すること等により、村民のバイオマスタウン構想への理解を深め、22年3月に西郷村バイオマスタウン構想を公表し、目標は達成されたと認められる。	

地域バイオマス利活用交付金(ソフト事業)

東北農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	市町村	農政局等	
【バイオマスタウン構想に沿ったバイオマス利活用システムを実現させるために必要な事業への支援】													
青森県	藤崎町	常盤地区	津軽みらい農業協同組合常盤基幹支店	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・生分解性農業用マルチフィルムによる実証栽培(1ha)及び優良事例視察研修の実施	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・生分解性農業用マルチフィルムの実証栽培を1ha実施する。 また、先進地視察での結果を町バイオマス利活用推進協議会において報告・検討を行い、次年度以降の栽培に生かすとともに住民への周知を行う。	○	バイオマス由来の生分解性農業用マルチフィルム実証栽培を1haで実施した。 実施現場によって分解にバラツキはあるものの、生産者及び町民のバイオマスに関する理解を深めることができた。 また、有効性及び今後の有望性についての確認のため、視察研修を実施した。研修参加者の理解は更に深まり、報告・検討会においては、今後の活用についても実現に向けて取組を継続していくこととなった。 平成22年度はにんにく収穫後、成果を確認するとともに、今後の利活用について検討会議を開催する予定である。	事業実施主体及び藤崎町が一体となり事業を実施し、町バイオマス利活用推進協議会において評価を行ったため、評価内容は左に同じ。	平成21年度事業内容すべてを実施し、個別成果指標を達成すること等により、目標は達成されたと認められる。	
宮城県	大崎市	大崎市	大崎市	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・大崎市バイオマス利活用推進委員会等開催 ・アクションプラン検討 ・市民講座や小中学校への出前講座実施 ・バイオマス利活用研修等受講 ・啓発用パンフレット作成 ・ヨシベレット燃焼試験実施 ・ヨシ事業実用化調査	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・産学官民が連携し、アクションプランを作成する。 ・パンフレット等を作成し、広く市民に啓発する。 ・ヨシベレット事業化に向けた実験を行う。	○	次のおり21年度事業内容を全て実施し、バイオマスタウン構想の具現化に繋がった。 ・大崎市バイオマス利活用推進委員会を開催し、産学官民連携体制が確立され、アクションプラン(菜の花・ひまわりプロジェクト、ヨシプロジェクト、生ごみプロジェクト)の取組に着手することが出来た。 ・市民講座、出前講座等の実施やパンフレットの利用により、市民や各種団体等がバイオマスタウン構想の理解を深めることが出来た。 ・地域の特色を活かしたヨシのベレット事業化に向けた燃焼試験等の実験が行われ、ヨシの事業化が可能であることが実証でき、ヨシ利活用の推進が図られた。 ・バイオマス利活用研修等を受講し、バイオマスアドバイザー(初級)を職員2名が取得し、バイオマス事業への組織強化と市民啓発活動の充実が図られた。 今後も、大崎市バイオマス利活用推進委員会において、バイオマスの技術開発や市民活動の推進を図り、タウン構想の実現に向け取組を進めていく。	大崎市が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	平成21年度事業内容をすべて実施し、個別成果指標を達成すること等により、目標は達成されたと認められる。	
秋田県	北秋田市	北秋田市	北秋田市	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・「北秋田市バイオマスタウン推進委員会(市各界各階層から構成され、同構想に基づき「北秋田市バイオマスタウン」を実現すべく、その事業化計画の策定ならびに住民への啓発を主な目的とする)」を3回開催する。 ・家畜排せつ物・生ごみの堆肥化、木質固形燃料化、木質バイオエタノール燃料化、稲わら等自給飼料利用促進の各事業について、それぞれ 1)バイオマス利活用可能量、需要量等の精査 2)バイオマス利活用事業の実行可能性調査(フュージビリティ・スタディ)を行い、事業化計画を策定する。	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・「北秋田市バイオマスタウン推進委員会」と連携を図り、その意見を反映して事業化計画を策定する。	○	平成21年度事業において、目標であるバイオマスタウン構想実現のために、バイオマス利活用可能量、需要量等の調査・精査を行い、バイオマス利活用事業の実行可能性を調査した。個別成果指標についても北秋田市バイオマス事業化計画策定委員会)を3回開催し、市と連携を図りながら、同委員会の意見を反映した事業化計画を策定したことから、目標は達成された。 今後は、事業化計画で示された課題の解決策について検討し、バイオマスタウン構想実現に向け取組む。	北秋田市が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	平成21年度事業内容をすべて実施し、個別成果指標を達成すること等により、目標は達成されたと認められる。	
山形県	庄内町	庄内町	庄内町	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・原料調達システム、バイオ燃料製造システムの可能性調査 ・ボイラー導入規模調査 ・ボイラーシステムの維持管理に関する調査 ・ボイラー導入による施設経営シミュレーション調査 ・事業実施スケジュール調査	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・原料調達システム、バイオ燃料製造システムの構築に関する指針の設定 ・ボイラー導入規模の設定 ・ボイラーシステム維持管理に関する指針の設定 ・ボイラー導入による施設経営指針の設定 ・事業実施スケジュールの設定	○	平成21年度事業内容、庄内町木質バイオマス利活用システム可能性調査及び個別成果指標を全て達成し、目標は達成された。 今後は、木質バイオマスボイラーの導入、普及を推進するとともに、資源循環型社会の形成を目指して、木質バイオマスの利活用を推進し、地域経済の振興に取組む。	庄内町が事業実施主体であるため、評価内容は左に同じ。	平成21年度事業内容をすべて実施し、個別成果指標を達成すること等により、目標は達成されたと認められる。	

東北農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体	市町村	農政局等	
【バイオマスタウン構想に沿ったバイオマス利活用システムを実現させるために必要な事業への支援】													
福島県	会津美里町	会津美里町	会津美里町	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・協議会の開催 ・展示及び見本の配布 ・生ゴミ搬入システム改善策の検証(分別収集エリア分けに伴うたい肥化施設運営体制の検討) ・たい肥原料としての一般家庭の生ゴミ収集実験等	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・農村部地域の一般家庭の生ゴミ2tの収集実験を行う。 ・一般家庭生ゴミ及び果樹剪定枝2tを利用したたい肥生産・流通システム構築の可能性を確認する。 ・家庭での生ゴミ利活用推進地区と分別収集地区のエリア分け検討や効率的な収集エリアの設定、地区の基礎データの整理等を行い効率的な収集システムの検討を行う。	○	21年度事業内容の「協議会の開催」、「農村部地域生ゴミ収集実験」、「生ゴミ分別収集エリア分けに伴う地区基礎データの整理及び効率的な収集システムの検討」、等を全て実施し、個別成果指標を含めた事業を達成したことにより、町民のバイオマスタウン構想への理解が図られ目標は達成された。 今後は、「会津美里町バイオマス利活用推進協議会」において、バイオマス利活用システム構築のため細部について検討を行う。			会津美里町及び福島県土地改良事業団体連合会が実施主体として計画した平成21年度事業内容をすべて実施し、個別成果指標を達成すること等により、目標は達成されたと認められる。
			福島県土地改良事業団体連合会	1. バイオマスの利活用の推進 (2)プラットフォームづくり支援 ア、バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援 ・果樹剪定枝の搬入システム改善策の検討 ・一般家庭生ゴミ、畜糞、及び果樹剪定枝を利用したたい肥生産実験 ・実験施設で生産された、剪定枝の入ったたい肥と入っていないたい肥を用いた水稲の特別栽培比較実験	H22	バイオマスタウン構想の実現・実践状況	○	・農村部地域の一般家庭の生ゴミ2t及び果樹剪定枝2t等を収集し、たい肥化実験を行う。 ・一般家庭生ゴミ及び果樹剪定枝を利用したたい肥生産・流通システム構築の可能性を確認する。 ・家庭での生ゴミ利活用推進地区と分別収集地区のエリア分け検討や効率的な収集エリアの設定等今後の町の取組方針に沿った提案を行う。	○	事業内容の「果樹剪定枝の搬入システム改善策の検討」、「一般家庭生ゴミ、畜糞、及び果樹剪定枝を利用したたい肥生産実験」、「実験施設で生産された剪定枝の入ったたい肥と入っていないたい肥を用いた水稲の特別栽培実験」を全て実施し、個別成果指標を達成することにより、町が行ったバイオマスタウン構想の実現に向けての普及・啓発活動に貢献でき、また、たい肥の生産・流通システムについて、今後の町の取組方針に沿った提案を行い、目標は達成された。 今後は、「会津美里町バイオマス利活用推進協議会」において、バイオマス利活用システム構築の実現に向け町の活動を支援していく。			